

一瀬大智 /Daichi Ichinose

作家プロフィール

風景を主なモチーフにした絵画を主に制作。
人がもつモノへの愛着や自然との関係性、日本に通底する「はかなさ」や自然観に関心をもち、近頃は絵画以外の手法も取り入れながら精力的に活動している。





しるし
2023
アクリル、キャンバス
971mm×1458mm



のぞむ
2023
アクリル、キャンバス
971mm×1458mm

「美術と風土 アーティストの触れた伊那谷展」



「伊那谷の上端、辰野に降り立った日、ここには何がある？
と人に尋ねると「あの山は登れるよ。」とその人は教えてくれた。

小一時間で上まで登れば、辰野やその向こうが見渡せる。

その日から山は目印になった。
帰るにはあの山を目指せばよかった。

「好きな時に帰ってくればいい」と。
山は静かに大らかに、ずっと待っている。」（アーティストの触れた伊那谷展 - 作品図録コメントより）

長野県・伊那谷を関西のアーティストが訪れて制作を行った。
伊那谷の北部にある王城山という山の山頂からの景色と、遠景から王城山をみた景色。
2点の絵画を制作・展示。展示した作品は、長野・愛知・京都・大阪の美術館など文化
施設を巡回した。

- 飯田市美術博物館，辰野美術館，豊中市立文化芸術センター，
白沙村荘 橋本関雪記念館，碧南市藤井達吉現代美術館



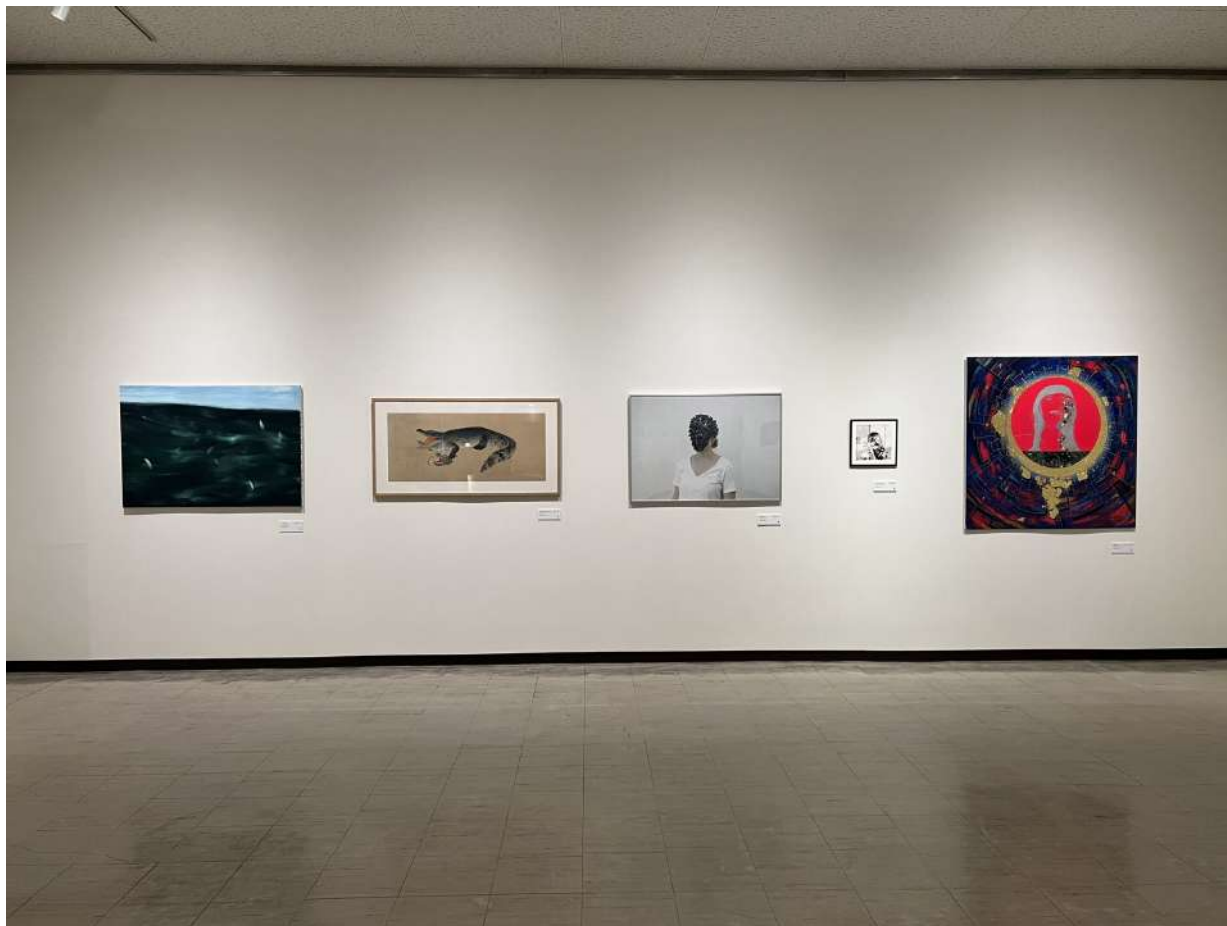
ピンクノイズ

2023

アクリル、キャンバス

803mm×1167mm

「ARTabi2023 国際現代アートアワード」



2023年に開催されたARTabi2023で「ピンクノイズ」が準グランプリを受賞。
長野の辰野美術館と東京のSansiao Galleryを作品が巡回。
画像は辰野美術館での展示風景。アジアを中心とした各国から作品があつまった。

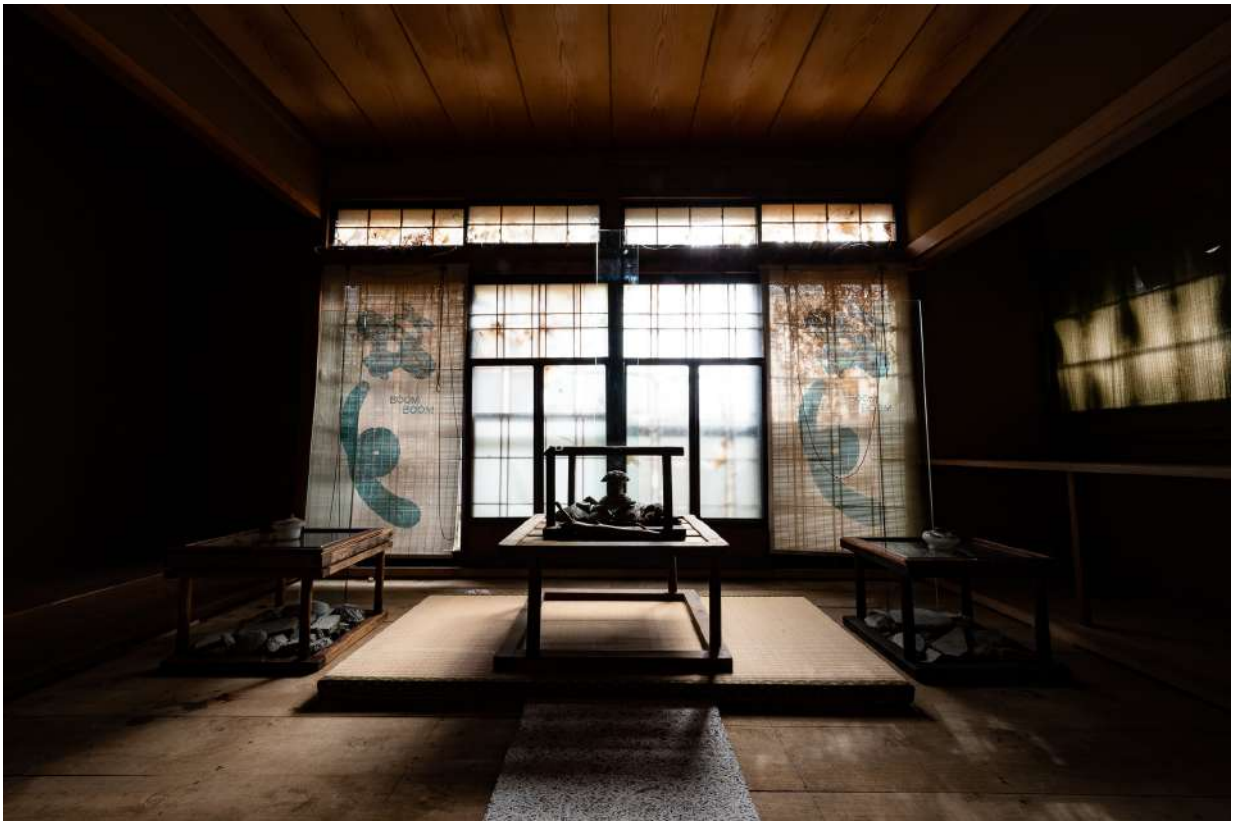
【ピンクノイズに関するコメント】

これまで「はかない」ことに興味をもち制作してきた。方丈記の「行く川のながれは絶えずして、しかも本の水にあらず。～」や平家物語「祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。～」の感覚。「はかない」ことが必ずしも悲しいだけのことではなく、安らぎや愛着をもつ。昨今の言葉で言い換えればエモいなどと表されるものだ。人間は1/fゆらぎに心地よさを感じる。それはろうそくの火の揺れや川の流れる音だったり、木漏れ日などの不規則な揺れのことだ。「はかなさ」とは一定のことに留まらず、物事が移りゆくさまを憂いて使われることが多い言葉である。であれば「はかなさ」もまた「揺れ」なのかもしれない。今作では道端に揺れているエノコログサをイメージとした。エノコログサの揺れから、自然の摂理やはかなさへの感傷、はたまた宇宙の揺らぎまでも感じられるような気がしている。

「トビチ美術館 2022 - 捨てる神あれば拾う神あり展」



素材：古道具、古材、セメント、タイル、OSB ボード、ガラス



「トビチ美術館 2022」

地域の空き家から出てきて、捨てられてしまった古い道具、建具などの品々。
それらを拾い集め、「空き家の幸」と呼称し、再び光を当てる～。(トビチ美術館より)

空き家からでてきた古道具や古材、家のお風呂からはがしたタイルなどを素材としたインスタレーションを展開。
会場も長らく使われていない空き家。会場を下見した際の暗い中にも光がある空間に惹かれ作品イメージを固める。

【作品コメント】

古くから人は大きな岩や木、山や海など人の力がかからないそうもないモノを慕い、祈ってきた。
この家にはじめて入ったとき、ほこりの中に光がちらついている感じが古い神社のようだと感じた。
空き家や古道具の山を前にすると、なぜだろうかと心惹かれる。
この気持ちはもしかしたら、長い時間やかなわない大きさを自然を思うことに近いのかもしれない。
それなら、家と古道具を神社に見立て、慕うように場をつくってみようと思う。



トビチ美術館 2021_ 展示風景

2021年のAIR事業「アーティストの冬眠@信州」をきっかけに長野県辰野町を訪れるようになった。辰野町は毎年200人のペースで人口が現象しており衰退の道を辿っていたが、地域の魅力を再編集することを目的とした「〇と編集社」や行政の活動を中心に移住者を希望する人が増えている。自身も関係人口として半年にいちどのペースで訪れるようになり、毎年1ヶ月ほど滞在制作を行っている。

略歴

2018 大阪成蹊大学芸術学部美術学科卒業
1995 奈良県生まれ

個展

2023 星屑とアクセプタンス 辰野美術館（長野）
2023 ひとりごと キュレーションスペース「密」 阪急メンズ大阪（大阪）
2023 青色礼賛 観光交流施設きらめきファクトリー（大阪）
2022 影は枯れない スタジオ・ツキミソウ（京都）
2021 もの想う窓 awaiya books（大阪）
2020 いみのなけなし ギャラリーサイハテ（大阪）

主な展覧会

2023 美術と風土 - アーティストが触れた伊那谷展（長野・愛知・京都・名古屋）
2023 ARTabi2023 国際現代アートアワード 準グランプリ（長野・東京）
2021' 22 トビチ美術館 下辰野商店街（長野）

2021 Artist in Hibernation / アーティストの冬眠@信州 辰野町滞在（長野）
2020 くうきはうかぶよ そらとたね 松山市滞在（愛媛）

2022' 23 Diaf EXCO（韓国・大邱）
2022 SICF23 SPIRAL（東京）
2021' 22' 23 BAMA Busan Annual Market of art BEXCO（韓国・釜山）

Web リンク

<https://ichinosest.com/works/>

https://www.instagram.com/ichinose_daichi_paint/